

# 東信

## 上田の千曲川堤防 国交省の緊急事業採択

### 住民「歓迎」「完成急いで」



台風19号に伴う千曲川の増水で浸水被害が出た上田市国分付近の堤防に、国土交通省が災害対策緊急事業に採択、強化を急ぐ方針を示した。23日、付近の住民からは歓迎の一方、「完成を急いで」との声や国、県の連携が重要との声が聞かれた。



千曲川(左側)の増水や越水で堤防が削られている上田市国分の市道沿い



奥から手前に堤防を乗り越える千曲川の濁流=10月12日午後8時20分ごろ、上田市国分(国土交通省提供)

一帯では千曲川支流の神川の合流地点から下流約250メートルにわたり越水した。信濃川水系河川整備計画に基づく改修が済んでおらず、堤防の高さは約1.5メートル、幅約2メートル。このうち約50分は本年度中の整備を自指す中で被災した。緊急事業は2020年度以降に整備予定だった下流側280メートル区間が対象。

「再び台風19号級が来れば堤防は持ちこたえられない。堤防近くに住む会社員竹内孝一さん(65)はこう受け止める。緊急事業について国交省は「速やかに着手」とするが、着手や完成の時期は現時点で示せないという。堤防の河川側が激しく削られ、鉄線に右を詰めた護岸強化の蛇籠が大きく動いてしまうなど水の力を目の当たりにし、「堤防整備が終わるのが先か、次の大きな台風が来るのが先か、気がでない」と話す。

堤防のすぐ下に自宅がある滝田豊美枝さん(84)もあと10メートルほど水が堤防を越えたと振り返り、堤防強化を「歓迎する」。神川の合流点付近に住む宮下忠征さん(74)は「早い完成を望む」とする一方、台風で合流点に分厚く堆積した土砂を放置すれば再び氾濫の危険性が高まる一として神川を管理する県と、国の連携強化を求めた。



台風19号で被災した佐久市入沢地区。谷川の氾濫で道路の復旧箇所も多く、慎重に走る車も目立った。23日午前10時28分

# 東信 除雪追われる

## 今季初のまとまった雪 スキー場は喜び

東信地方は22日夜から23日にかけて雪となり、軽井沢の12時間降雪量は23日午前5時までに21センチを記録。今季初めて平地でまとまった雪となった佐久地域では朝から住民が除雪に追われた。

佐久市のJR佐久平駅近くは数センチの積雪。近くのそば店では店員らが店の入り口や駐車場に積もった雪をかき出し、佐々木幸さん(66)は「水を含んでいて重い。腕の力がいる」と話していた。

台風19号で谷川が氾濫した同市入沢では、仮復旧した川沿いの道路などが真っ白。仮復旧した道路について「砂利道なので雪をどけるのが大変」といった声も聞かれた。

上田地域でも東御市などで雪かきをする姿が見られた。長和町のプランシユたかやまスキーリゾートは積雪20センチほどに写真に収めていた。

足元に気を配りながら軽井沢駅に向かう親子。23日午前9時48分

ど。これまで人工降雪機を使っても気温が上がって雪が解けてしまっていたといい、スキースクール講師の小宮山耕平さん(34)は「上田市西内は「スキー場にとっては恵みの雪だ」と話した。

## 「全壊」20万円 「半壊」10万円

### 佐久市の義援金1次配分

佐久市の災害義援金配分委員会(委員長・花里英一副市長)は23日、台風19号災害を受けて市に寄せられた義援金の1次配分を決めた。県の基準などを参考に「全壊」の世帯は20万円、「大規模半壊」は15万円、「半壊」は10万円、「一部損壊」は2万円とし、亡くなった市民の遺族は20万円とした。

市によると、市に寄せられた義援金は今月10日現在で2億1000万円余。来年3月末まで引き続き募集しており、1次配分後の残金や、今後寄せられる義援金については、改めて委員会を開いて配分を決めるとしている。

市は義援金について「できるだけ早く(被災者に)お届けしたい」と(花里副市長)。

県から佐久市に割り振られた義援金2200万円余(13日現在)と一緒に、被災者の口座に振り込むとしている。

## 県内は前線

## 新潟は地形

### 台風19号大雨の要因分析

気象庁は23日、台風19号による東日本を中心とした大雨について、地域ごとの要因分析結果を発表した。長

した地域があつたとしている。ケースを比較した。総降水量が400ミを超えた千曲川流域は両方のケースで大雨となつたため、地形効果あまりなく、前線の影響が大きい可能性が高い。一方、新潟県上越市付近では地形があるケースでより雨量が増加した。

気象庁によると、10月12日13日の19号接近時、台風中心の北側に形成された前線と、山地に湿った空気がぶつかる地形効果が持続的に上昇気流を発生させ、各地の雨を強化したと考えられる。

各地の降り方の違いを調べるため、コンピュータ上のシミュレーションで、実際の地形があるケースと、山を平地にして地形効果を除去した

岩手県沿岸部や宮城、福島両県を流れる阿武隈川流域、関東南部では、前線と地形の両方により雨量が増幅されたとみられるとしている。